

## 上越市クリーンセンター 生活環境保全協議会 資料

### 資料1 上越市クリーンセンターの運営状況について

上越市クリーンセンター 施設の特徴

平成30年度ごみ受入量

平成30年度ごみ焼却処理量

平成30年度焼却炉の稼働状況

平成30年度ごみピット量

平成30年度発電状況

平成30年度灰搬出量

平成30年度灰処分量

環境をみまもるための測定・管理について

平成30年度大気汚染防止法に基づく測定（ばい煙測定）

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（ダイオキシン類）

平成30年度 燃焼ガス温度の推移

平成30年度 一酸化炭素の排出状況

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（ばいじん）

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（塩化水素）

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（硫黄酸化物）

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（窒素酸化物）

平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（水銀濃度）

### 資料2 環境測定結果について

平成30年度 敷地境界線上における粉じん濃度

平成30年度 敷地境界線上における騒音および振動

平成30年度 敷地境界線上における臭気

平成30年度 周辺環境のダイオキシン類濃度 土壌

平成30年度 周辺環境のダイオキシン類濃度 大気

### 資料3 平成30年度 年間運転計画／実績表

### 資料4 平成30年度 環境測定結果一覧表（上期／下期）

### 資料5 上越市クリーンセンター 環境測定の概要

### 資料6 上越市クリーンセンター 火災事故の発生原因と再発防止策

### 資料7 上越市クリーンセンター 地域イベントへの協賛

以上

---

上越市クリーンセンター  
生活環境保全協議会資料

上越市クリーンセンターの運営状況について

上越環境テクノロジー株式会社

# 上越市クリーンセンター 施設の特長



安心、安全で安定した  
施設

環境保全に限りなく  
配慮した施設

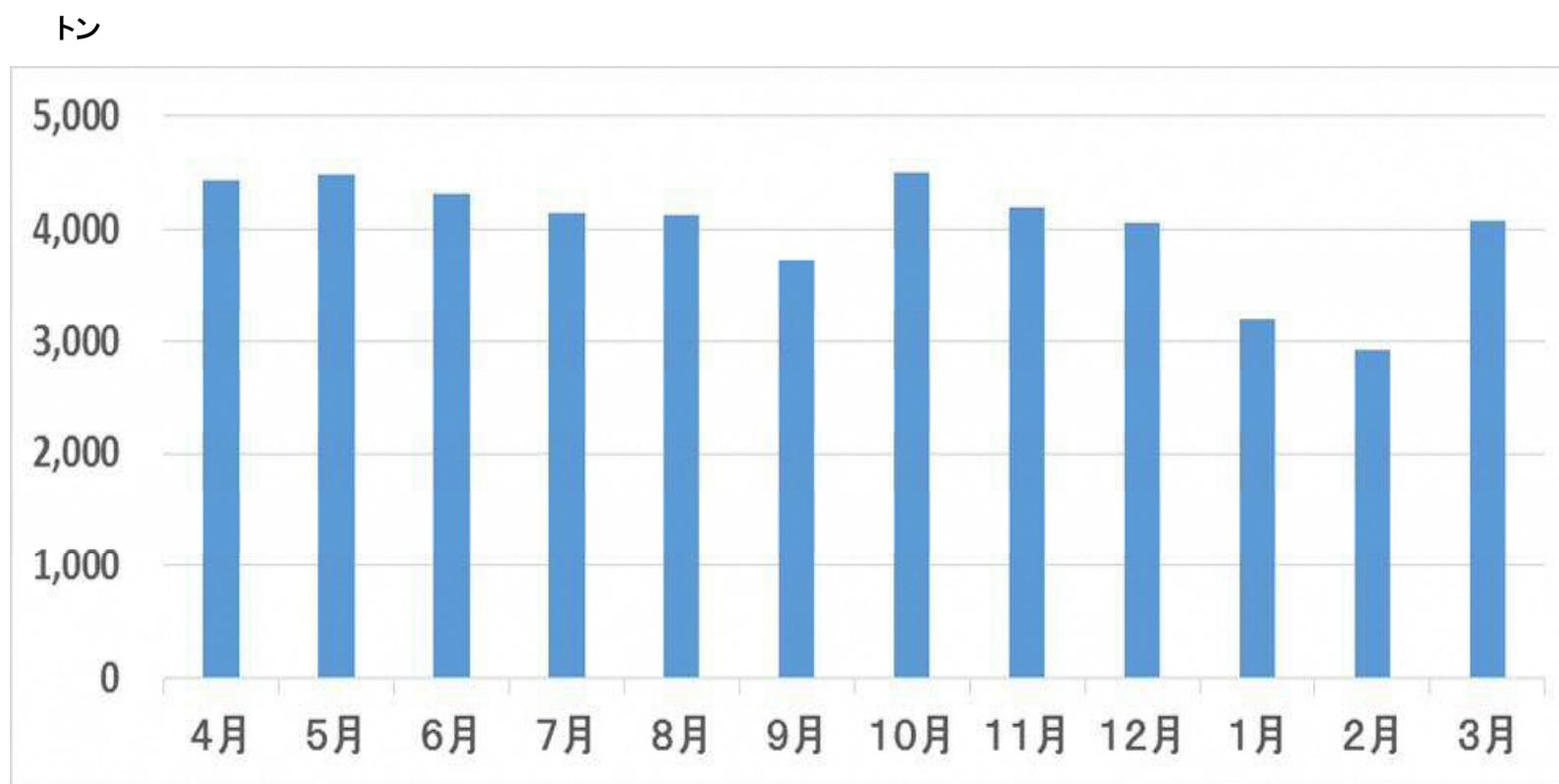
エネルギーと資源の  
回収に優れた施設

周辺環境に調和した  
施設

経済性に優れた施設

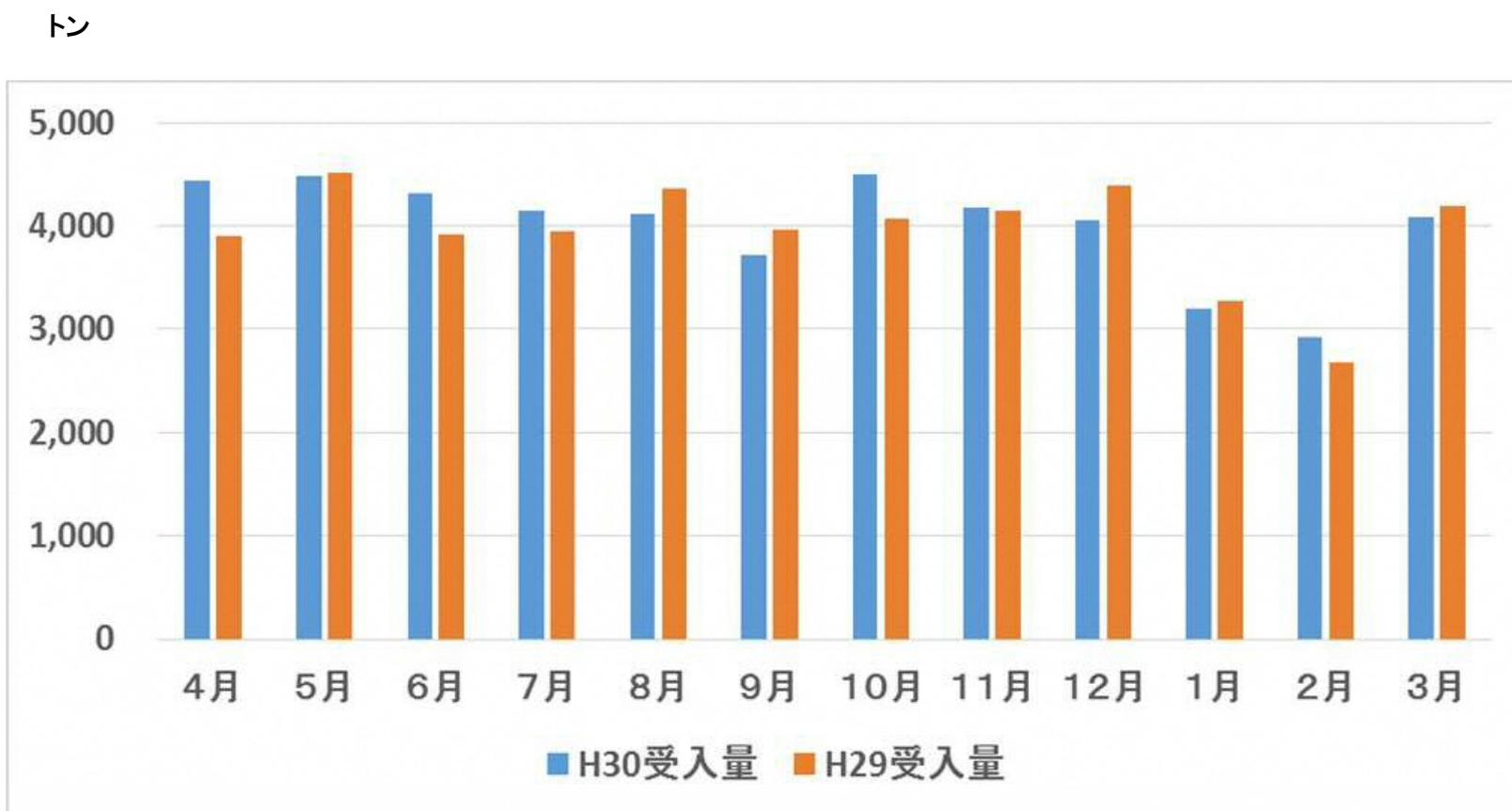
# 平成30年度 ごみ受入量

合計 48千トン



# 平成30年度 ごみ受入量 前年度比較

前年度比 1.67%増

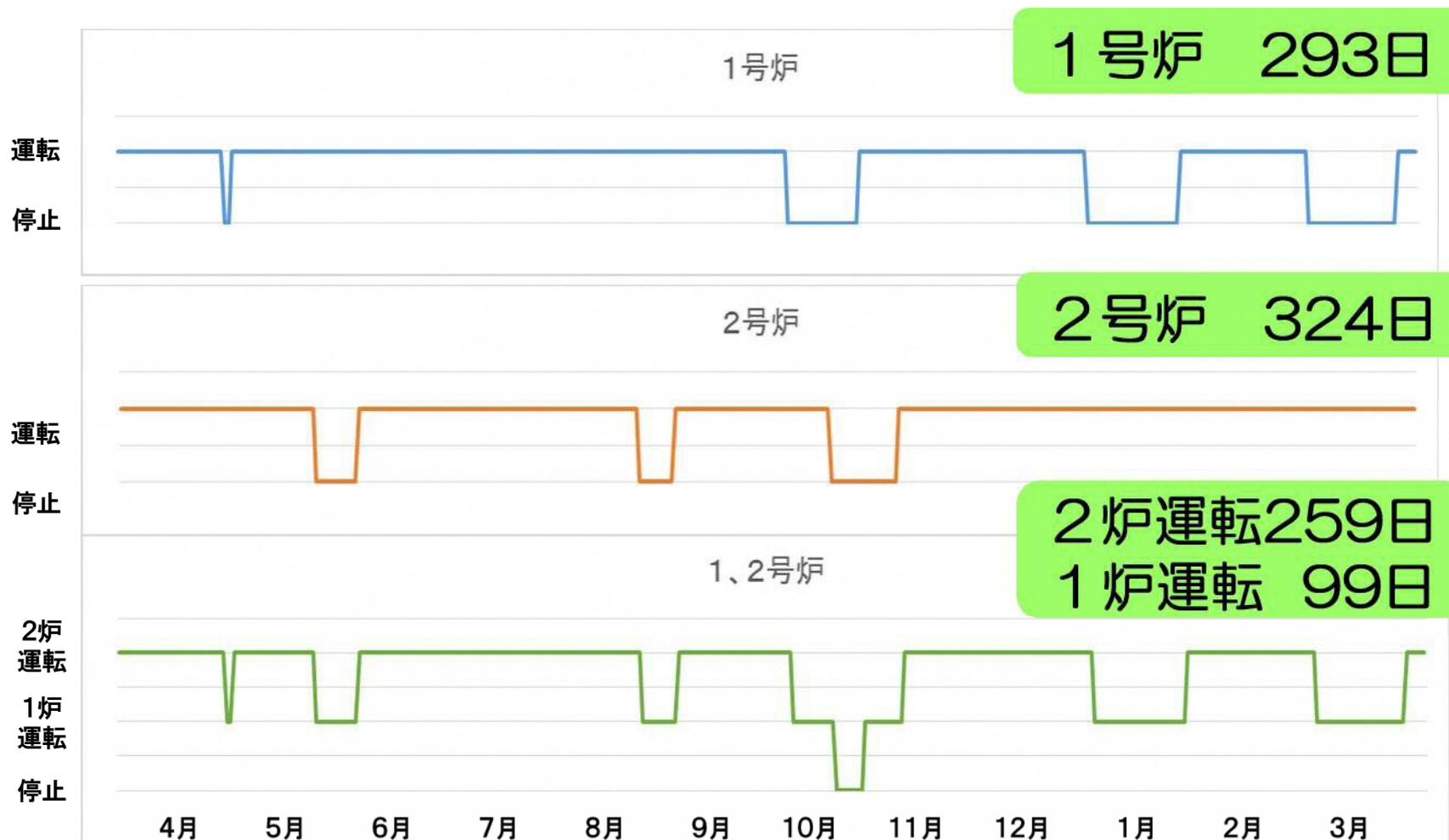


# 平成30年度 ごみ焼却処理量

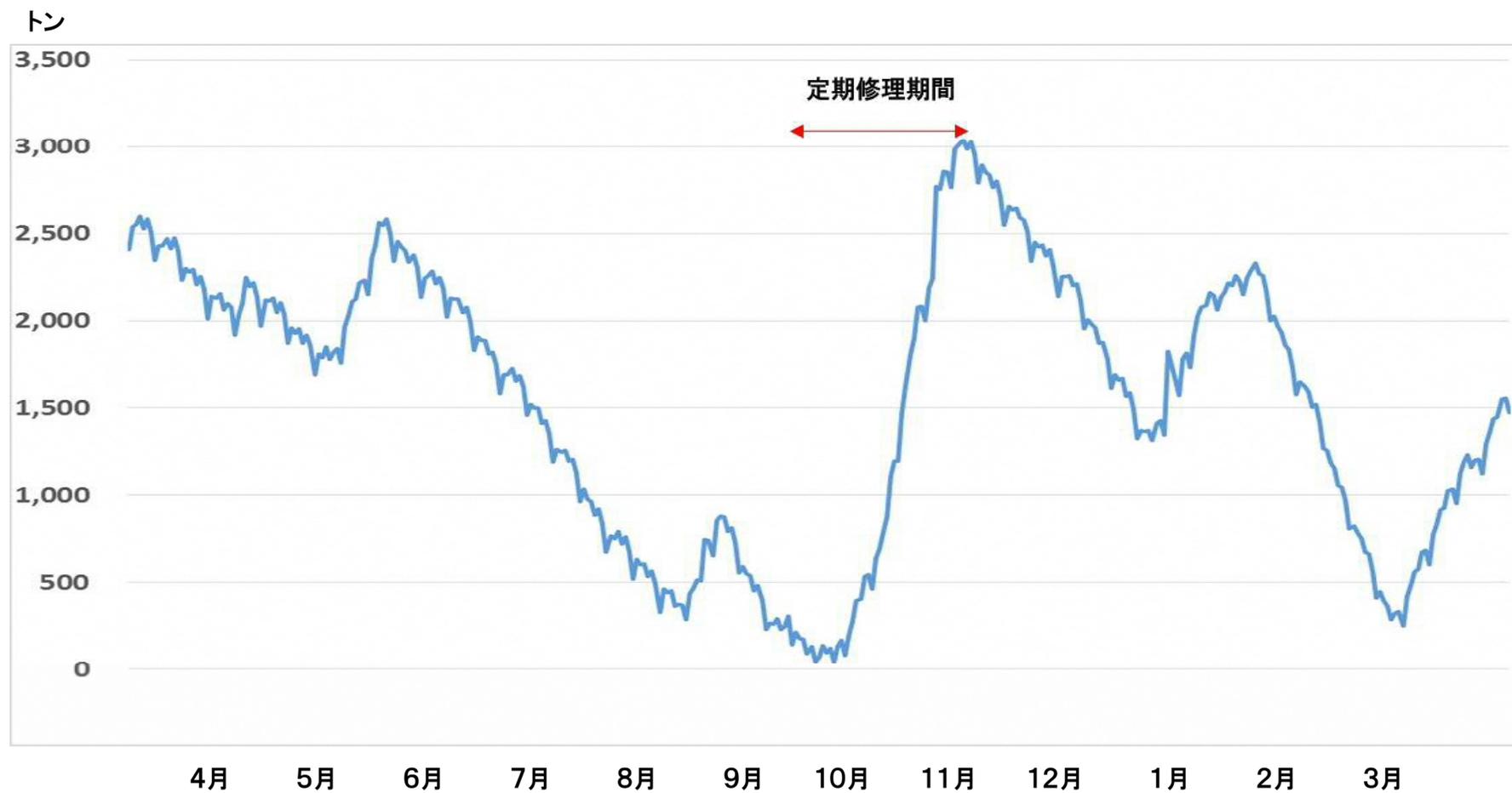
合計 51千トン



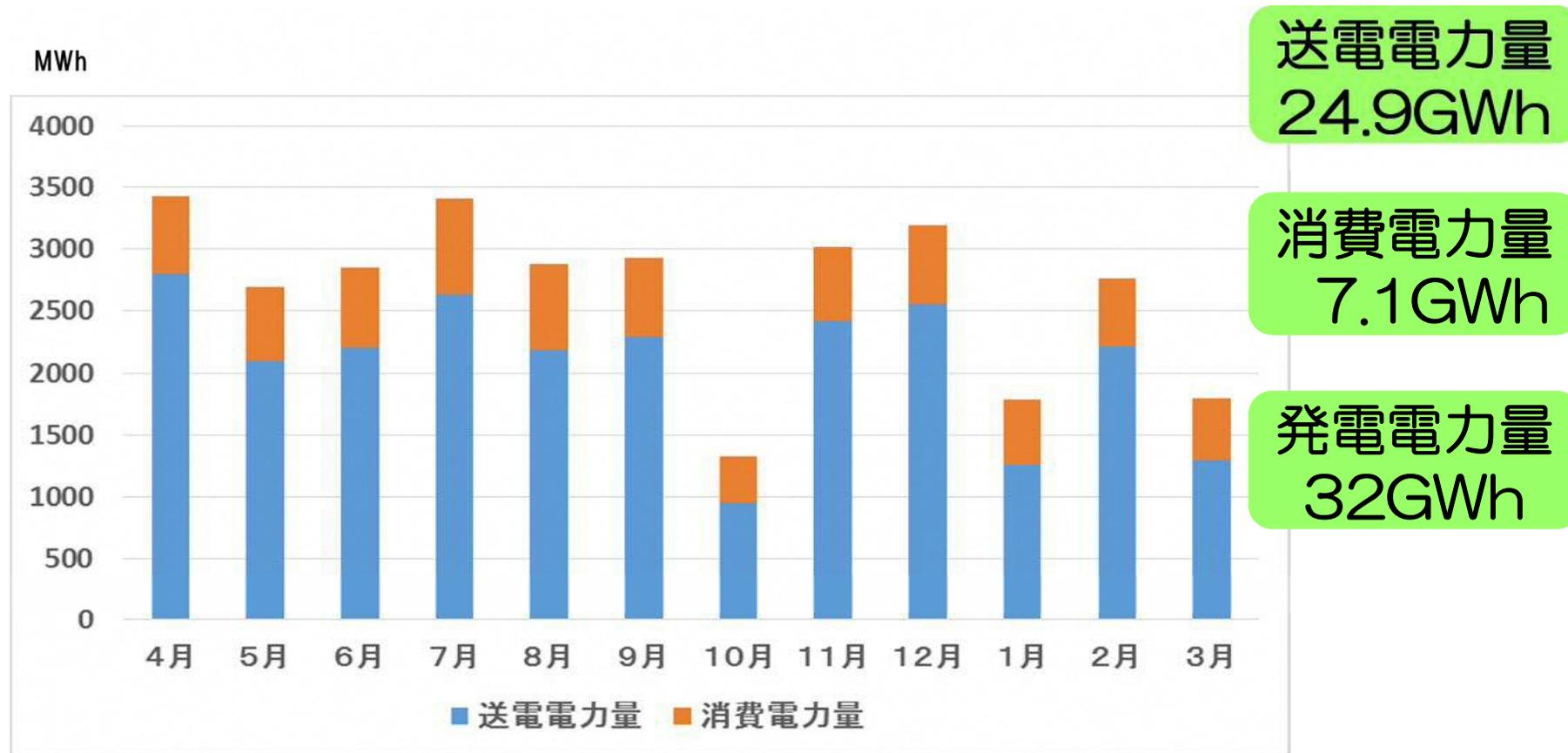
# 平成30年度 焼却炉稼働状況



# 平成30年度 ごみピット量



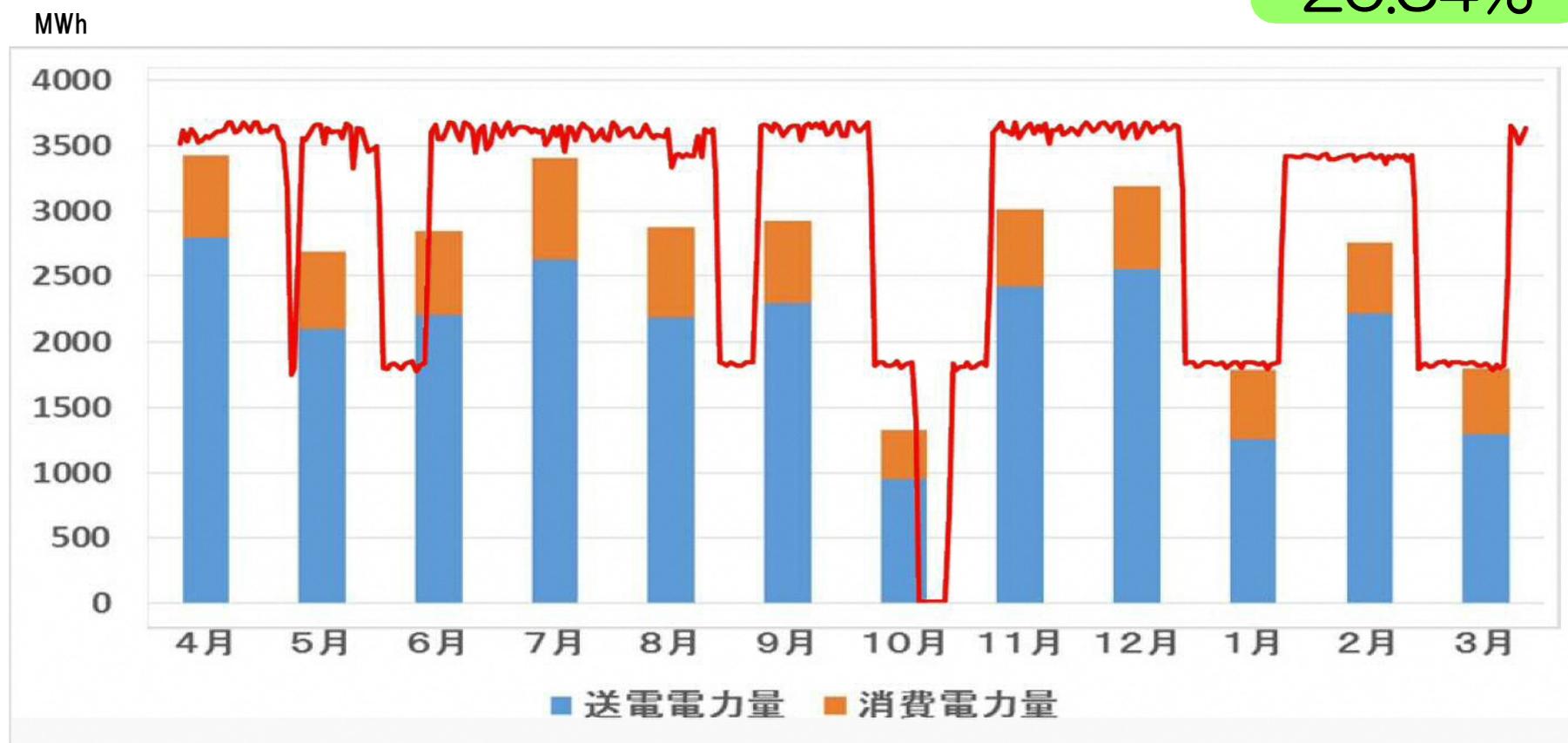
## 平成30年度 発電状況



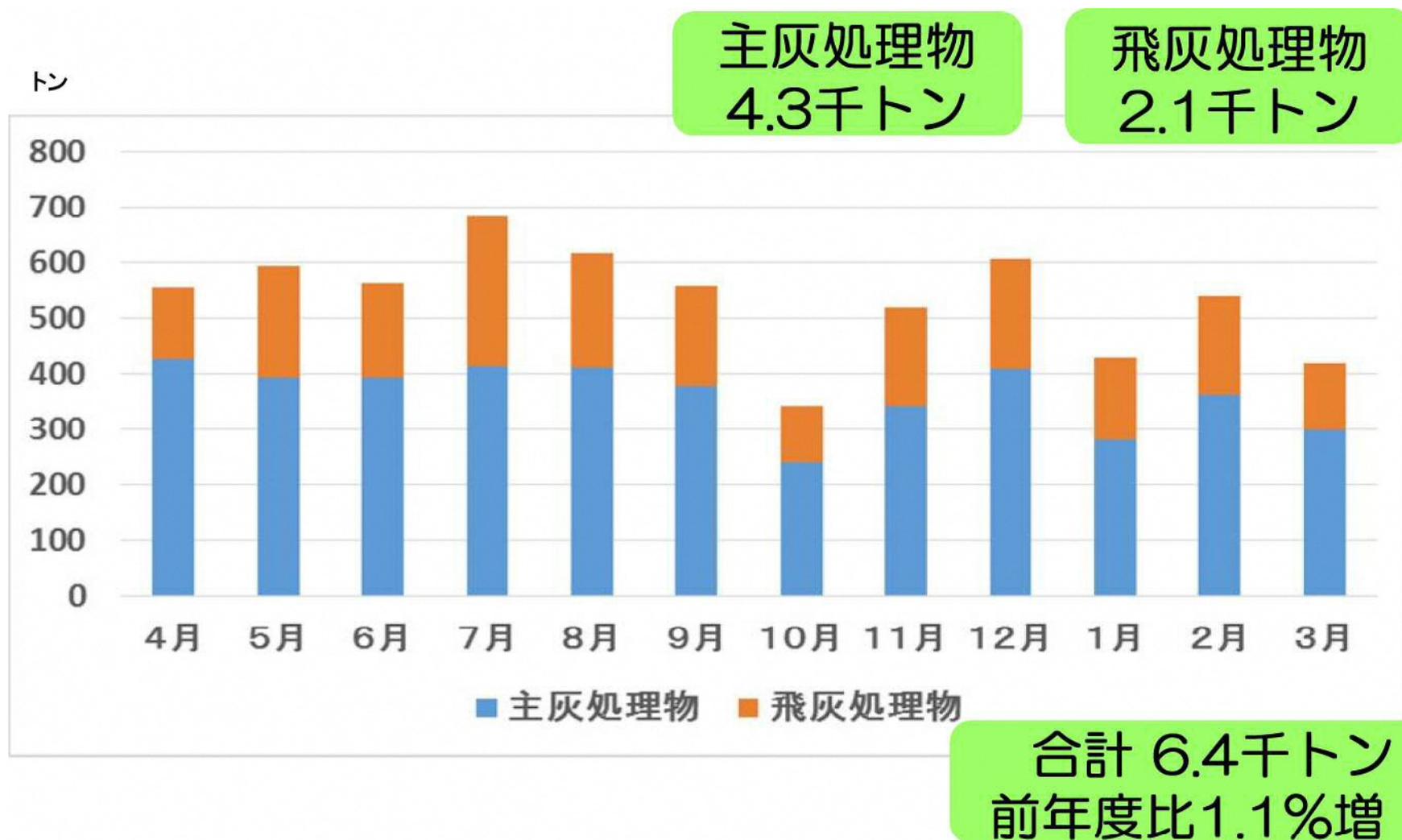
注記:上記の消費電力には、10月共通停止時の購入電力92.5MWh及び非常用発電機の発電量を含んでいません。

# 平成30年度 発電状況

発電端効率  
20.54%

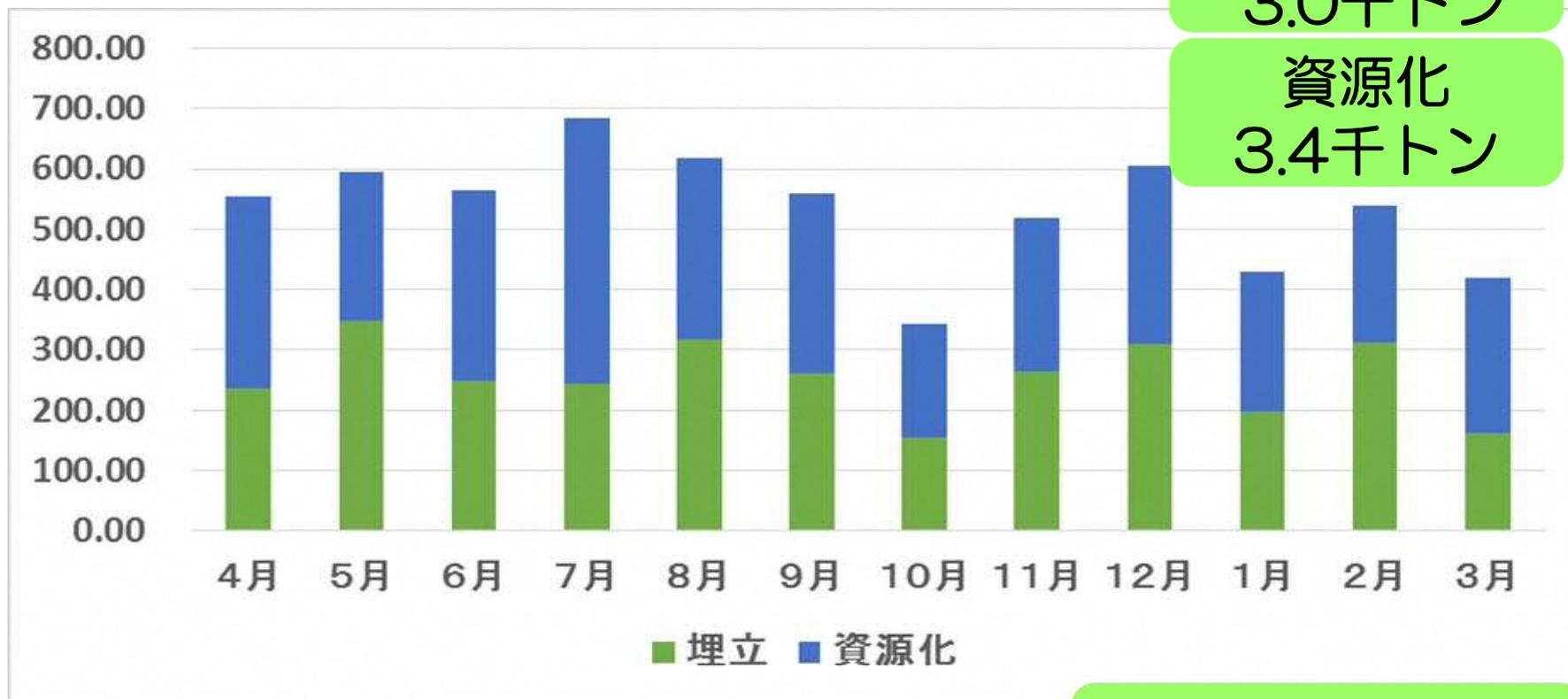


# 平成30年度 灰搬出量



# 平成30年度 灰処分量

トン



埋立  
3.0千トン

資源化  
3.4千トン

合計 6.4千トン



## 環境をみまもるための測定・管理について

---

**大気を汚さないように、  
煙突から放出する物質の濃度・量が  
法律等で決められています。**

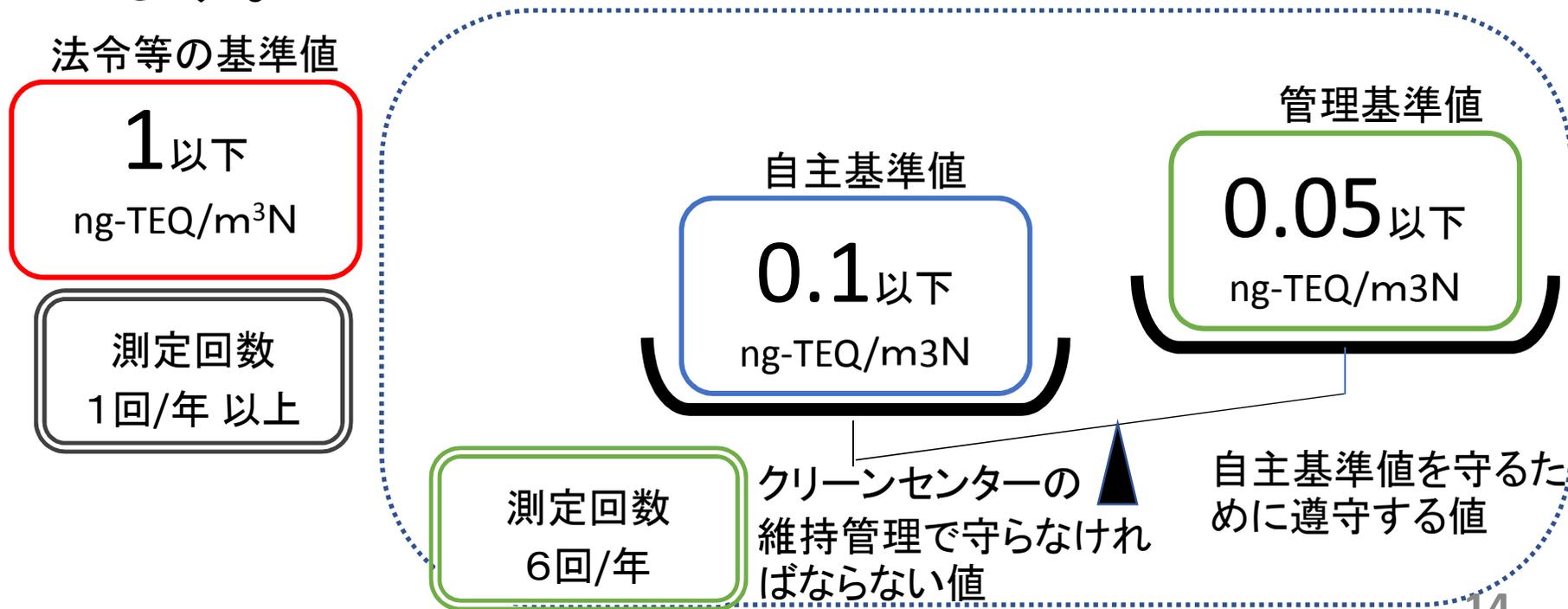
- 1 ダイオキシン類**
- 2 ばいじん**
- 3 塩化水素**
- 4 硫黄酸化物**
- 5 窒素酸化物**
- 6 全水銀**

平成30年度  
大気汚染防止法に基づく測定（ばい煙測定）



# 1 ダイオキシン類

物質の燃焼が悪い時に発生します。  
発癌性などの毒性が高い有機塩素化合物です。  
環境汚染による人間の健康や生態系への影響が懸念されています。



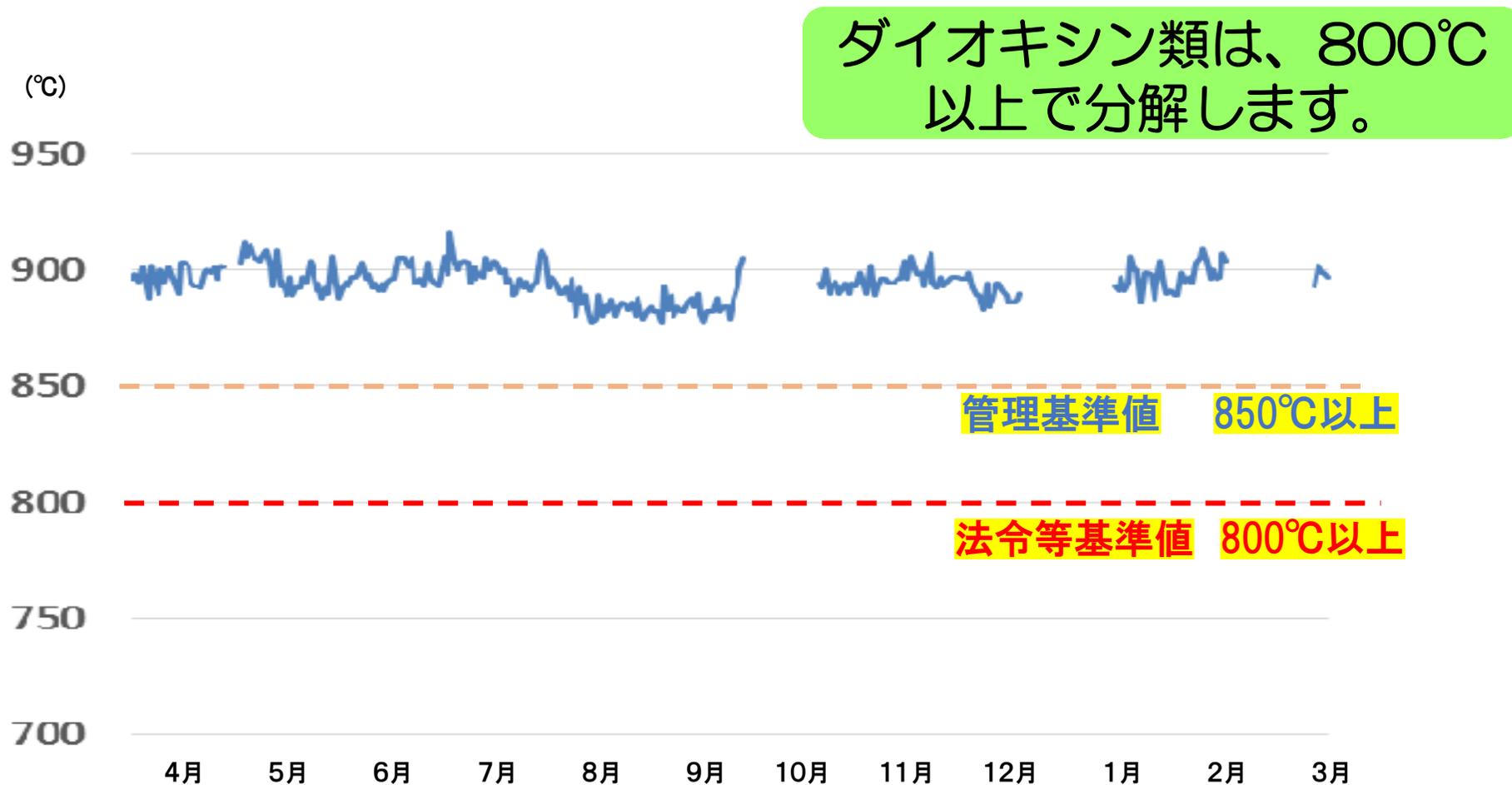
# 平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（ダイオキシン類）

ダイオキシン類：測定年6回（法令等では年1回以上）

単位：ng-TEQ/m<sup>3</sup>N

	測定日	H30年4月	H30年6月	H30年8月	H30年10月	H30年12月	H31年2月
	管理基準値						
1号炉	0.05ng-TEQ/m <sup>3</sup> N 以下	0.00079	0.00044	0.00032	0.00078	0.00058	0.0110
2号炉		0.00080	0.0150	0.0039	0.0051	0.0070	0.0040

## 平成30年度 1号炉燃烧ガス温度の推移

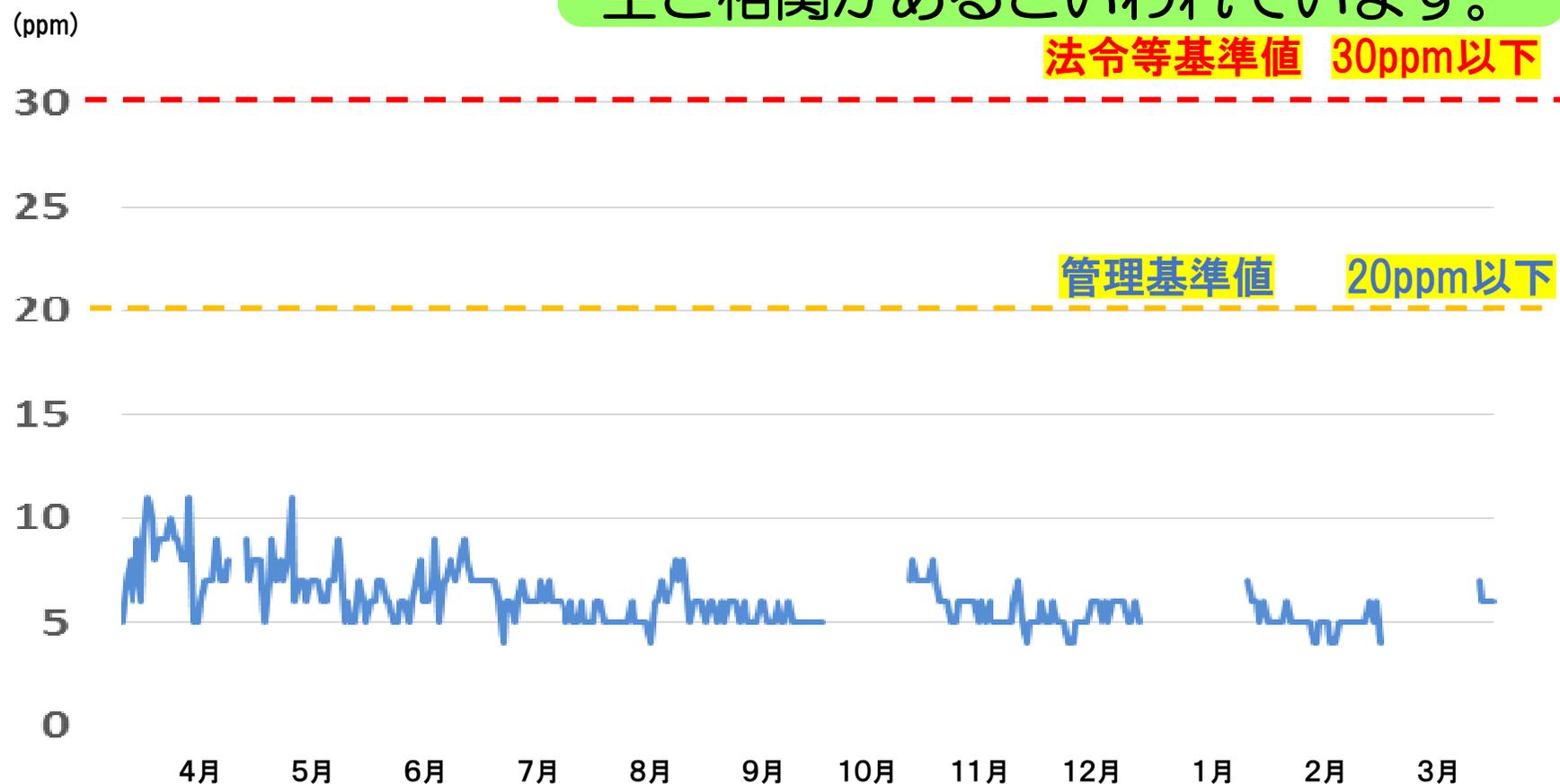


## 平成30年度 2号炉燃烧ガス温度の推移

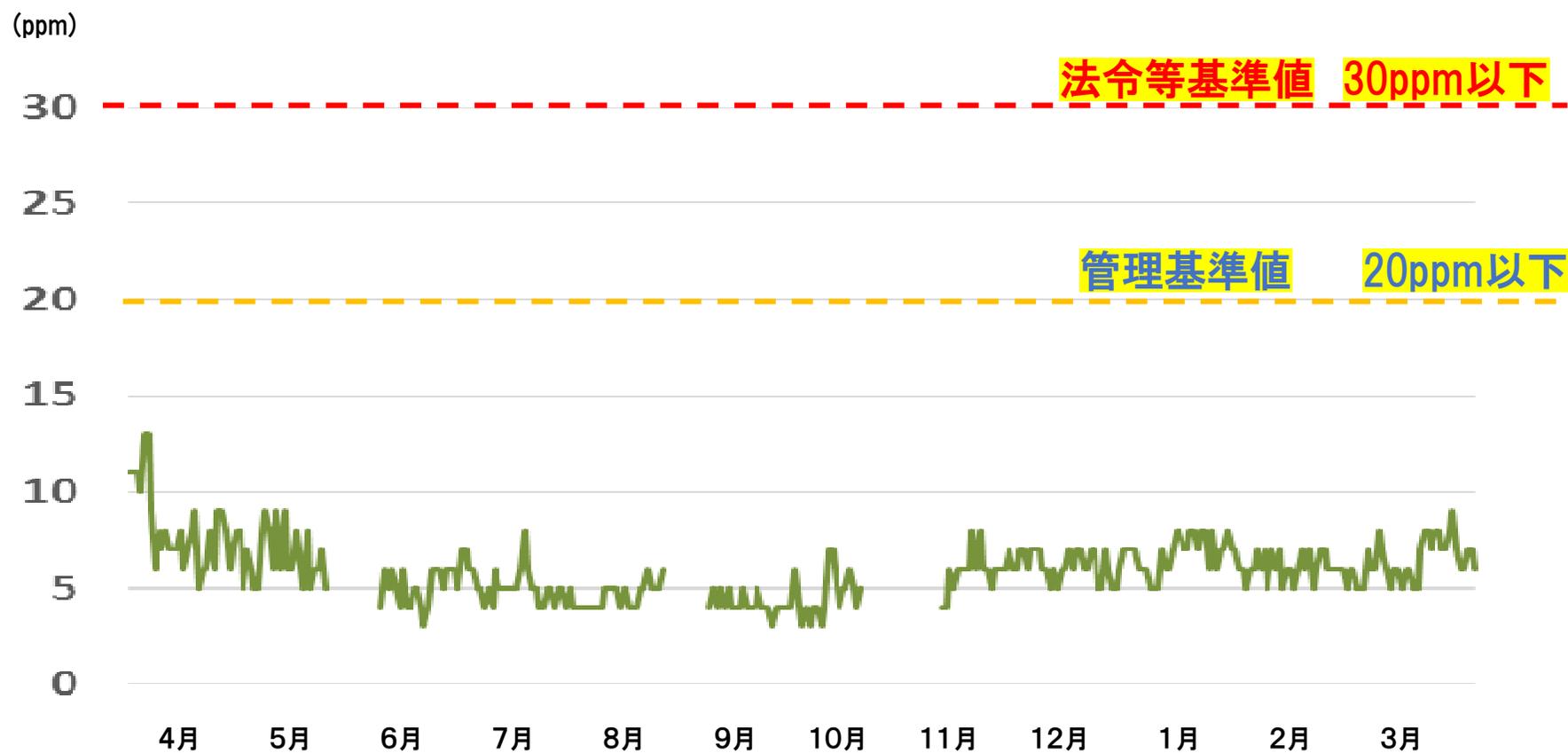


## 平成30年度 1号炉一酸化炭素の排出状況

一酸化炭素は、ダイオキシン類の発生と相関があるといわれています。

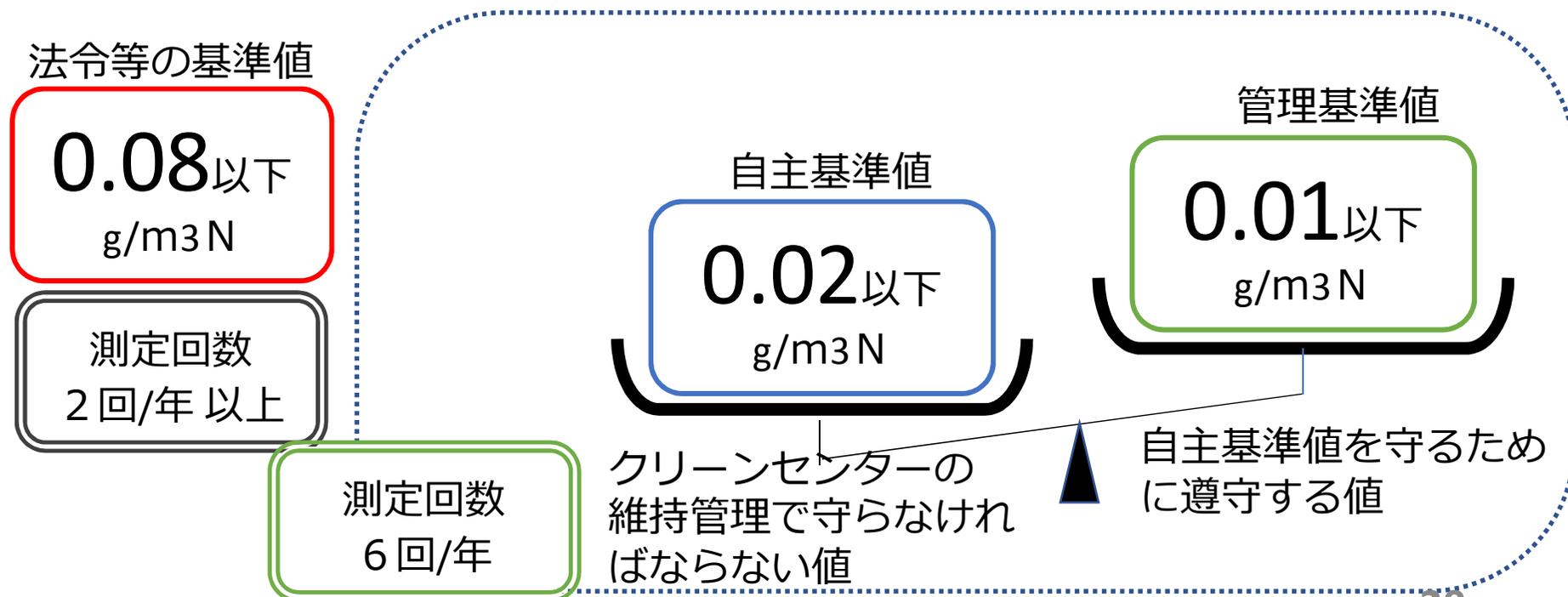


## 平成30年度 2号炉一酸化炭素の排出状況



## 2 ばいじん

ばいじんは、焼却で発生する細かい粒子状の物質です。  
たき火の煙にも含まれています。  
ぜんそく、慢性気管支炎などの病気を招く可能性があります。



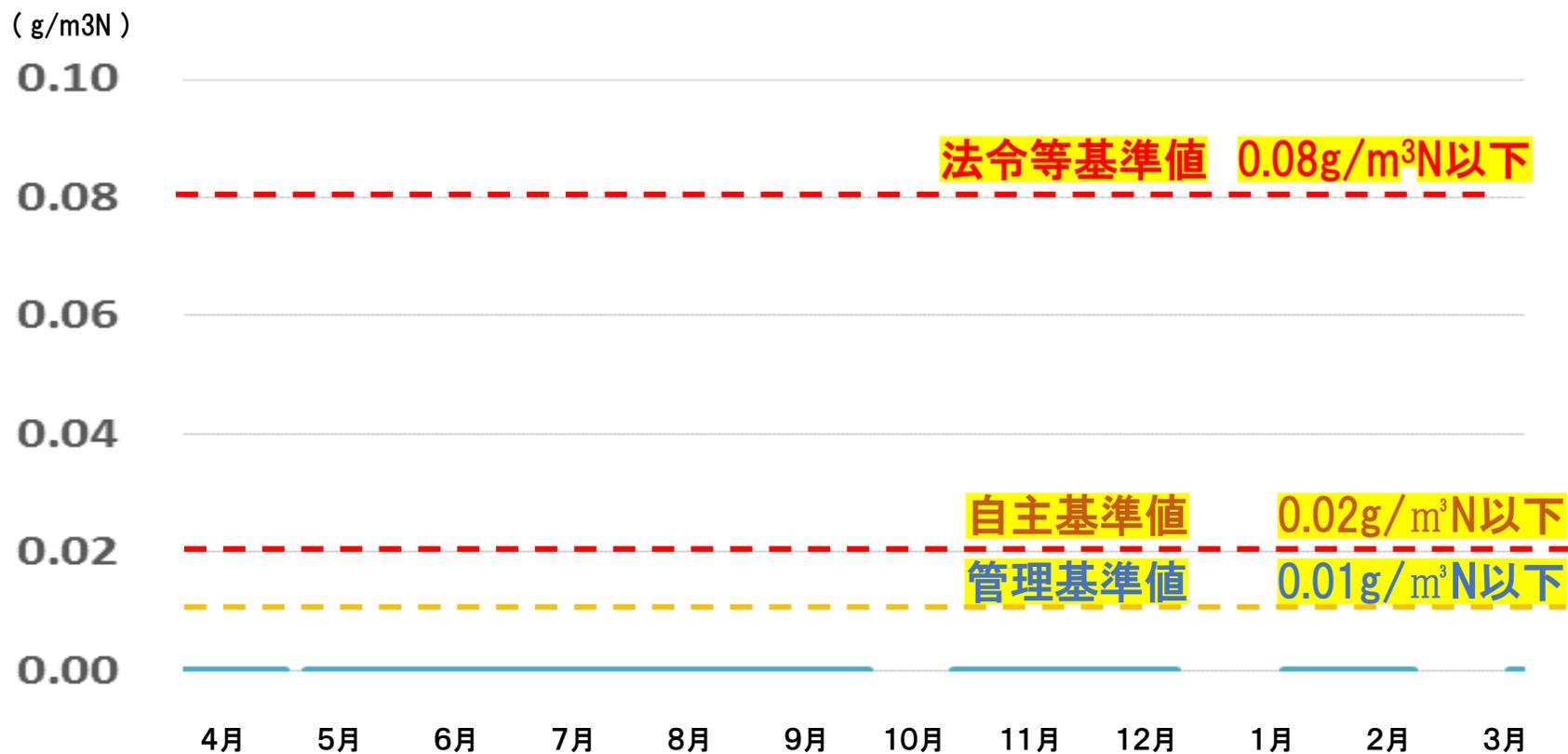
# 平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（ばいじん）

ばいじん：測定年6回（法令等では年2回以上）

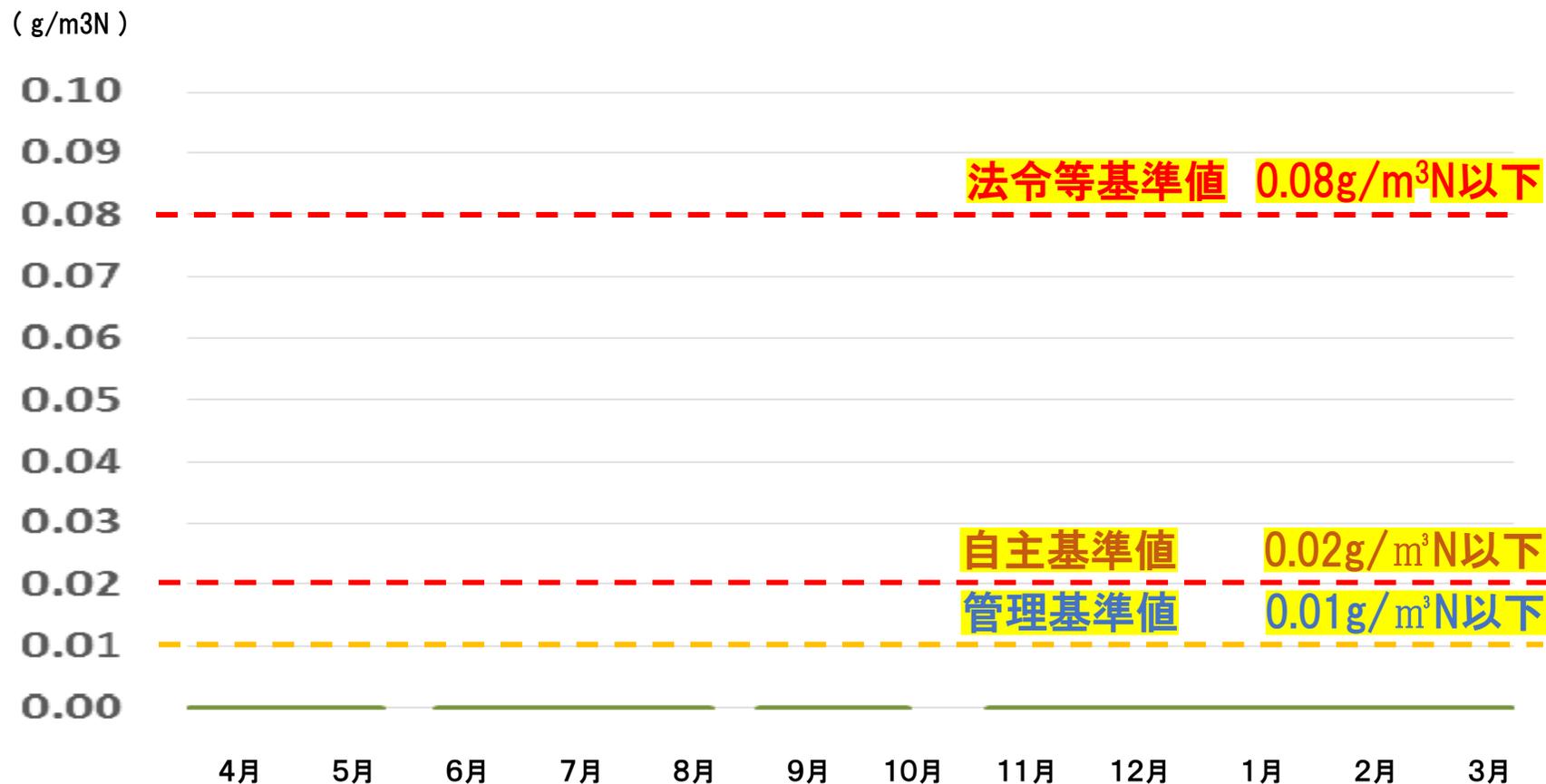
単位：g/m<sup>3</sup>N

	測定日	H30年4月	H30年6月	H30年8月	H30年10月	H30年12月	H31年2月
	管理基準値						
1号炉	0.01 g/m <sup>3</sup> N 以下	0.001 未満					
2号炉		0.001 未満					

# 平成30年度 1号炉ばいじんの排出状況

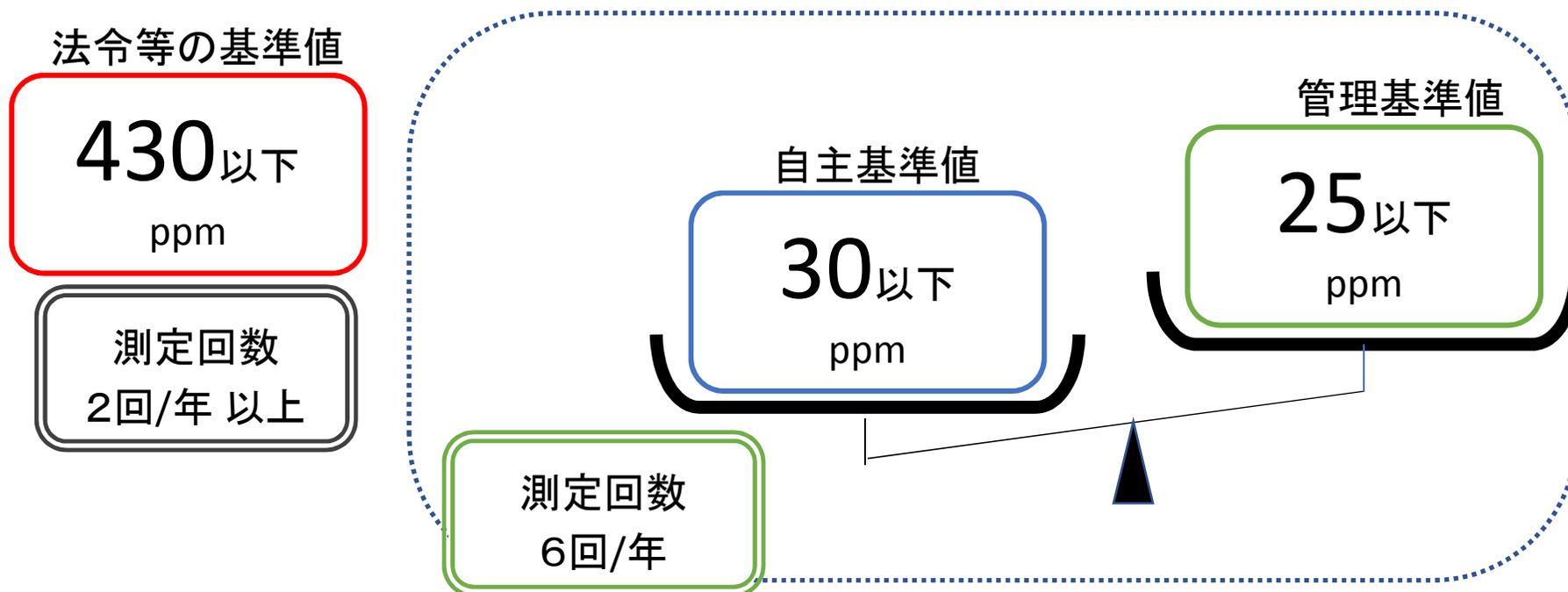


## 平成30年度 2号炉ばいじんの排出状況



### 3 塩化水素

塩化ビニル等の塩素系高分子化合物の燃焼により発生。  
粘膜を刺激し炎症を起こします。  
大気汚染の原因となります。



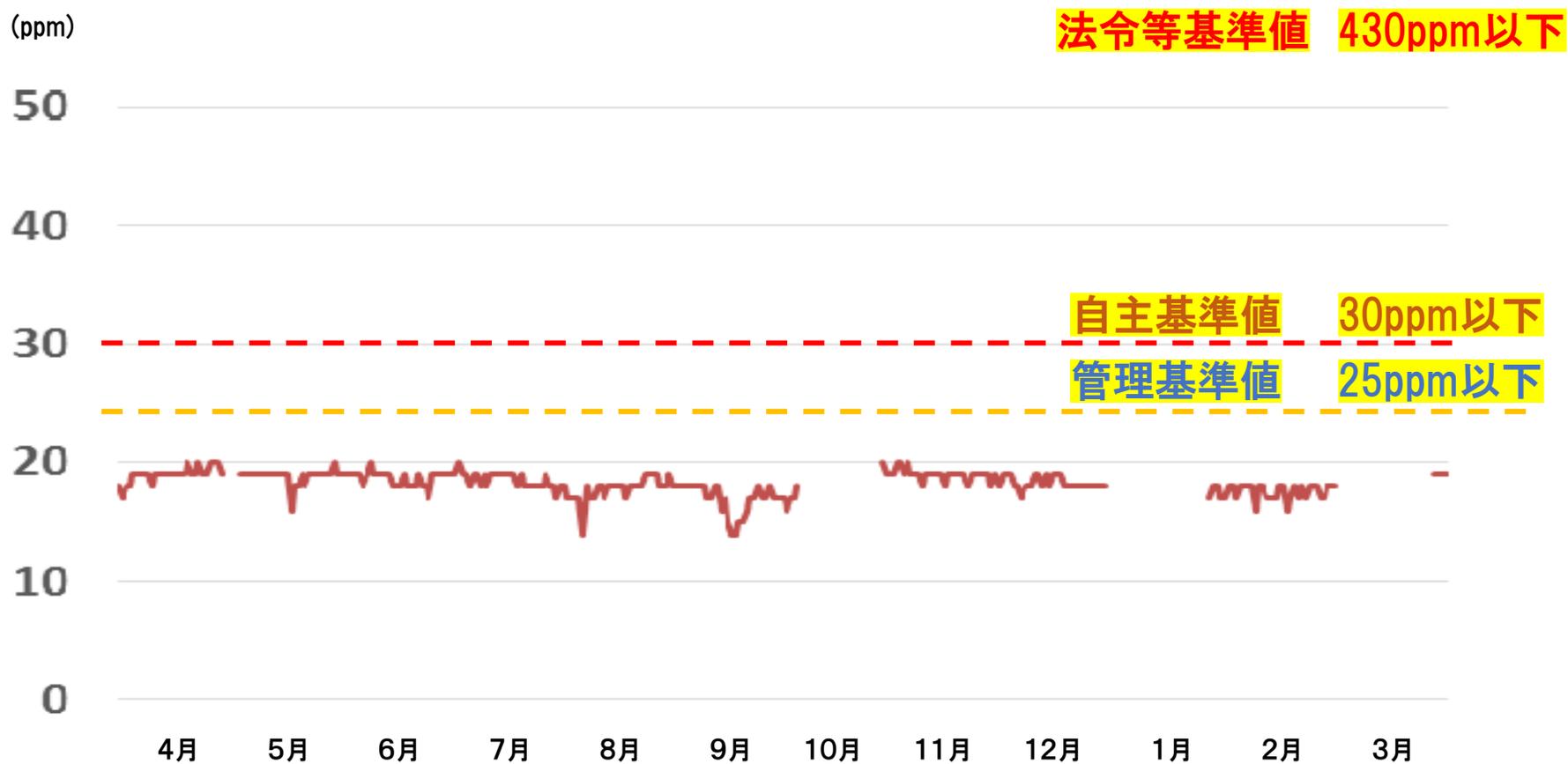
# 平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（塩化水素）

塩化水素：測定年6回（法令等では年2回以上）

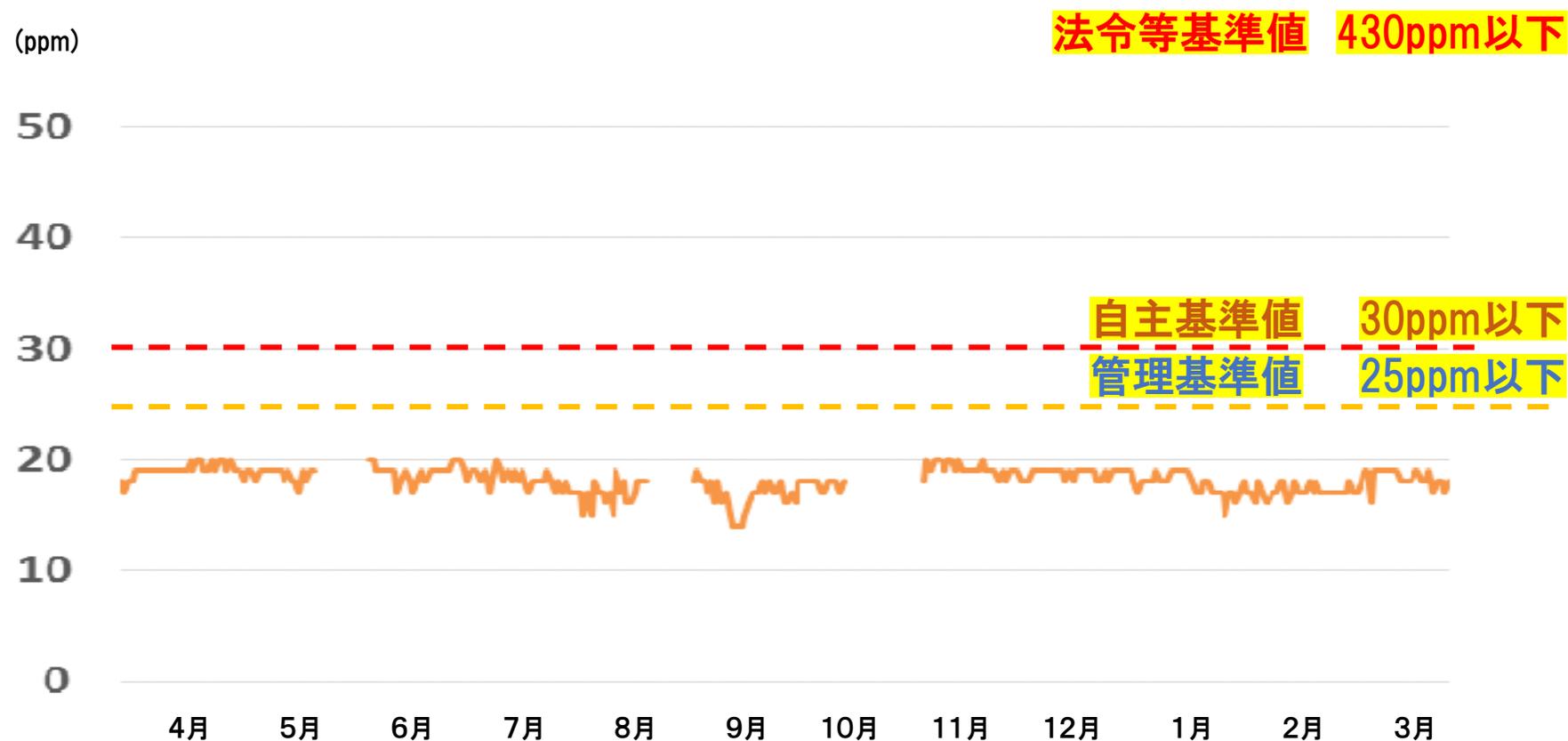
単位：ppm

	測定日	H30年4月	H30年6月	H30年8月	H30年10月	H30年12月	H31年2月
1号炉	管理基準値 25 ppm 以下	15	18	16	14	16	18
2号炉		16	19	18	17	17	19

# 平成30年度 1号炉塩化水素の排出状況

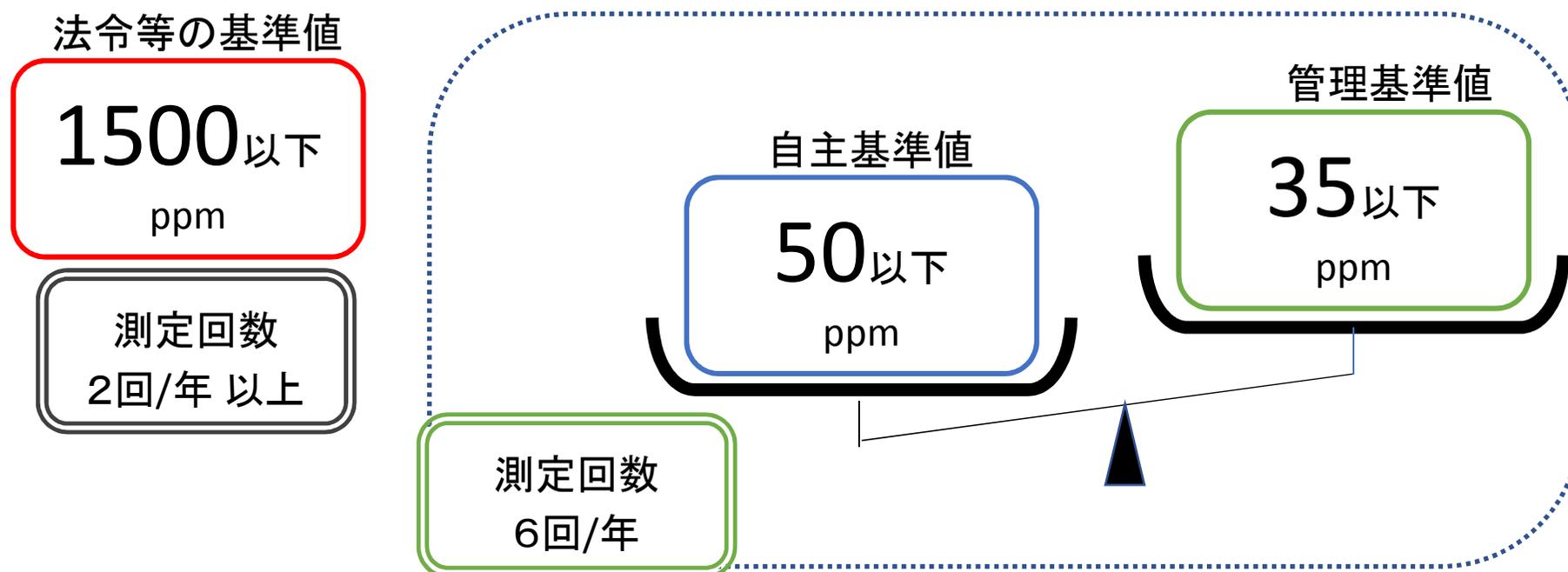


## 平成30年度 2号炉塩化水素の排出状況



## 4 硫黄酸化物

硫黄と酸素が結合してできる酸化物の総称で、化石燃料を燃焼するときに発生します。  
刺激臭が強く、呼吸機能や目の粘膜に刺激を与えます。  
大気汚染の主な原因といわれ、酸性雨の原因にもなります。



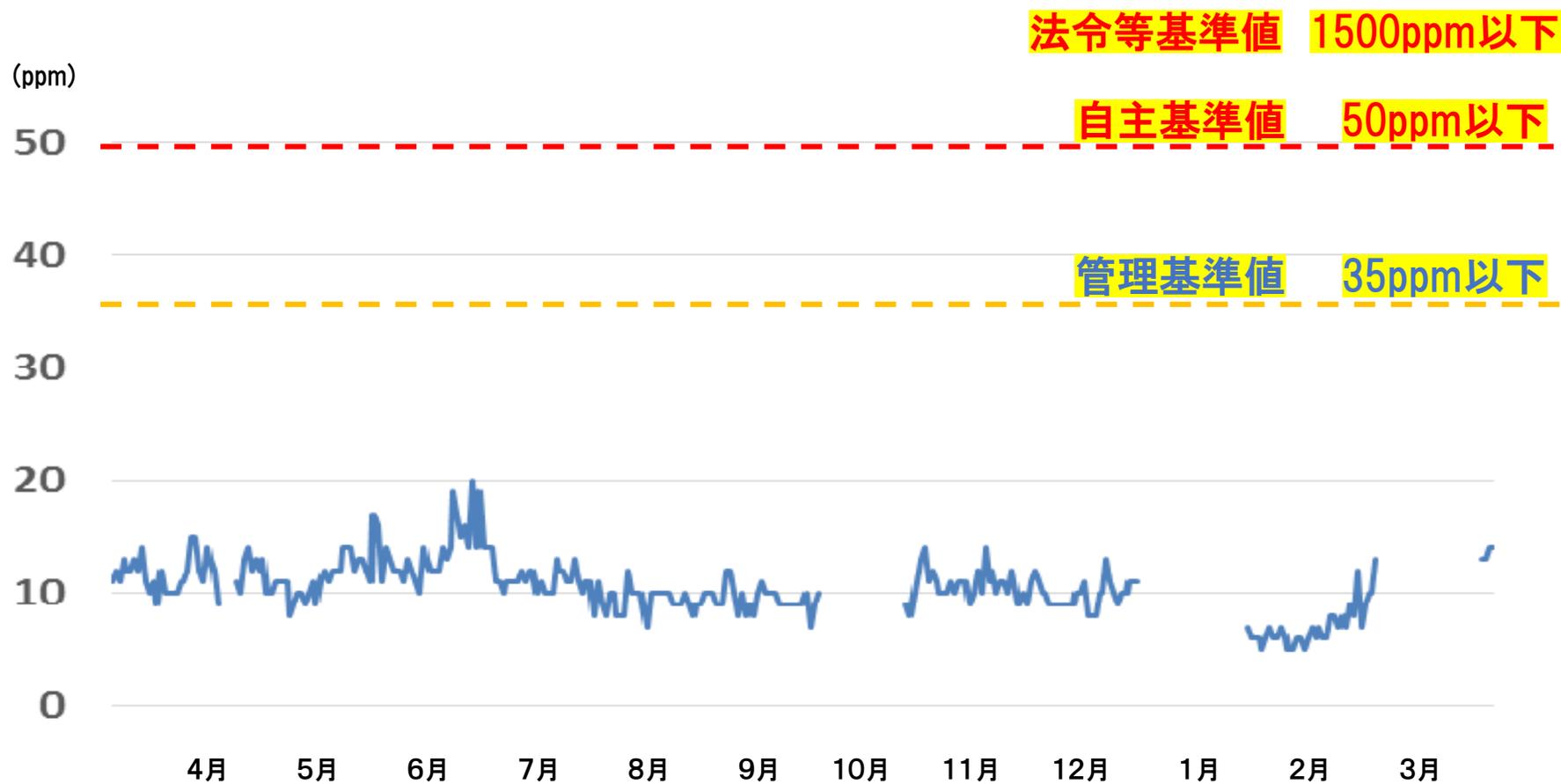
# 平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（硫黄酸化物）

硫黄酸化物：測定年6回（法令等では年2回以上）

単位：ppm

	測定日	H30年4月	H30年6月	H30年8月	H30年10月	H30年12月	H31年2月
	管理基準値						
1号炉	35 ppm 以下	10	14	8	9	13	12
2号炉		11	11	12	11	13	4

## 平成30年度 1号炉二酸化硫黄の排出状況

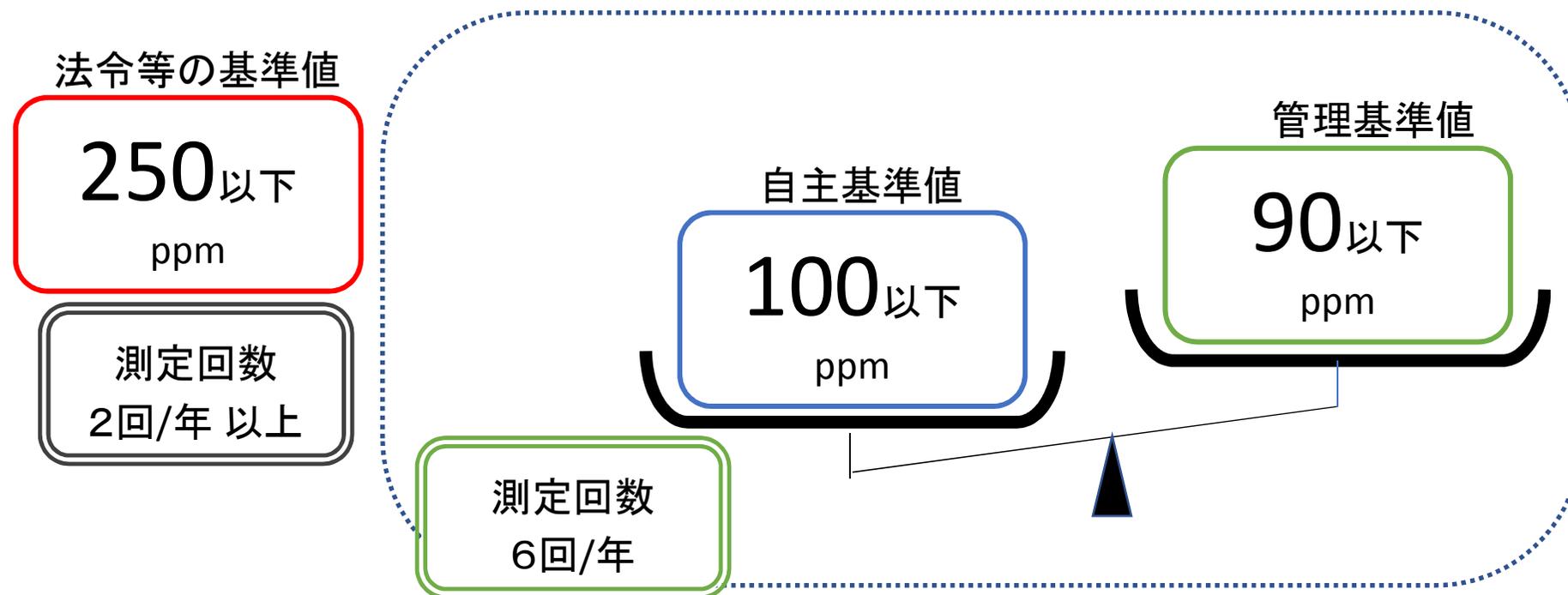


## 平成30年度 2号炉二酸化硫黄の排出状況



## 5 窒素酸化物

物が高温で燃やされたときに発生します。  
高い濃度の時、人の呼吸器に悪い影響を与えます。  
光化学スモッグや酸性雨の原因になります。



# 平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（窒素酸化物）

窒素酸化物：測定年6回（法令等では年2回以上）

単位：ppm

	測定日	H30年4月	H30年6月	H30年8月	H30年10月	H30年12月	H31年2月
	管理基準値						
1号炉	90 ppm 以下	68	60	69	74	71	68
2号炉		73	68	69	77	74	65

# 平成30年度 1号炉室素酸化物の排出状況



## 平成30年度 2号炉室素酸化物の排出状況



## 6 全水銀

ガス状水銀、粒子状水銀をあわせて全水銀と云います。  
水銀を含んだごみが燃焼されることで発生します。  
中枢神経・内分泌器・腎臓などの器官に障害をもたらします。  
水俣病の原因となります。

法令等の基準値

0.05以下  
mg/m<sup>3</sup>

測定回数  
2回/年 以上

自主基準値

0.05以下  
mg/m<sup>3</sup>

測定回数  
2回/年

平成30年4月1日から水銀大気排出規制が開始されました。



## 平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（水銀濃度）

測定年2回（法令等では年2回以上）

自主基準値：0.05 mg/m<sup>3</sup>以下

単位：mg/m<sup>3</sup>

	1号		2号	
測定日	H30年4月	H30年10月	H30年4月	H30年10月
水銀濃度	0.0018	0.0022	0.0016	0.0021

# 平成30年度 大気汚染防止法に基づく測定（水銀濃度）

単位：mg/m<sup>3</sup>

